

令和7年度第3回青森市廃棄物減量等推進審議会

会議概要

1 日時

令和8年2月12日（木） 10時00分～10時40分

2 場所

青森市福祉増進センター（しあわせプラザ） 2階 研修室

3 出席者

【委員】

佐々木委員（会長）、青山委員、一戸委員、鈴木委員、竹中委員、西田委員、三津谷委員（森委員が欠席し、8名中7名出席）

【事務局】

環境部 佐々木部長、齊藤次長

廃棄物・リサイクル課 阿部課長、松原主幹、日渡主幹、平井主査、佐藤主事

浪岡振興部市民課 熊谷課長

4 会議の公開、非公開の別

「青森市附属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議は原則として公開することとしており、当審議会においても公開とした。

5 会議内容

(1) 令和7年度第3回審議会

①開会

②審議「青森市一般廃棄物処理基本計画（案）について」

配付資料「資料1：青森市一般廃棄物処理基本計画（案）」について、「資料2：素案における目標値設定の考え方」、「資料3：素案に対する各委員からの主な意見及び計画への反映状況等について」、「資料4：目標値案に対する各委員からの意見等について」、「資料5：素案に対する各委員からの意見等について」について事務局から説明を行い、委員から意見等をいただいた。

③閉会

6 会議要旨

① 青森市一般廃棄物処理基本計画（案）について

（委員）

○アンケートで青森県の平均水準が良いと答えたが、東北地方の平均水準にまともだろうと考えつつも、青森市の食品ロスや水分が多いことは青森市に住んでいる自然の特徴であり、私たちの豊かな生活の一部でもある。その辺りのやむを得ない事情もあるが、水分を減らすための工夫が必要であるとする。全体として東北地方平均水準を目指すことには異議がない。

（会長）

○他にご意見はないようなので、今回の審議内容を踏まえて、青森市一般廃棄物処理基本計画の策定についてよろしく願います。
最後に事務局から何か連絡事項等があるか。

（事務局）

○（今後のスケジュールについて説明）

② その他

（委員）

○国の基準が望ましいと考える一方で、東北地方の平均水準になるだろうと感じていた。ダイエットと同じように、高めの目標設定がごみの減量にも効果的だと思っているが、あまり高すぎると「無理だ」と感じてしまい逆効果になることもある。そのため、スモールステップを踏んで徐々に目標を上げるべきと考えている。今回の設定は長期的なものなので、もう少し頑張りたい気持ちもあるが、確実に東北の水準を満たすためには積極的な取組が非常に重要であり、市民の理解を深めるプロセスが重要である。

○冬の豪雪によるごみ出しが非常に困難な状況となり、高齢者の転倒も聞こえてくる中、冬季のごみ収集に関して減量や回数調整を検討すべきだと考える。市民には冬のごみ減量の意識が薄く、「やってくれないと市の怠慢だ」との感情を持たれる可能性もあるが、実際には現場の作業員が非常に苦勞しているため、収集回数の調整や効率化を進める必要があるとともに、ごみの減量と現場の負担軽減策を併せて市民にアピールしていくことが大切であり、年間を通じた持続可能なごみ処理の仕組みを模索する必要がある。

（会長）

○私の経験では、地域の町会や他の町会を巡回していると、かつては水分をきることを意識していたが、最近ではその意識が薄れ、燃えるごみとしてそのまま捨てる傾向が目立つことを感じるため、これらのごみはかなりの重量になることがあるので、再度市民に

対して水分をきることの重要性の啓発をお願いしたい。

(委員)

- 基本計画について修正等の意見は特にないが、「学校での学習や施設見学は子供たちの気付きが家庭にも自然に広がりやすく、長期的に見て分別やリサイクルの定着につながると感じている」という意見に関しては、先日コミュニティスクールの仕組みを通じて小学生にリサイクルの重要性を伝える機会を得た際、教育を受けることで子供たちが将来にわたり分別やごみ削減に貢献することが期待でき、親世代にも良い影響を与えると感じたため、非常に重要なことだと考え、この取組の意義は大きいと認識している。
- 本日の新聞報道によると、政府はリユース市場の拡大を推進する方針を発表し、リサイクルショップの活用もその一環として考慮されているが、基本計画によれば使わなくなったもののリユース活動は約30%にとどまっているため、啓発活動においてリユースやリサイクルショップの活用を促進することでさらに効果的になると考えられ、リユースやリデュースはリサイクル率には直接的な影響を与えないものの、一人当たりの排出量には影響を与えるため、その観点からも啓発していく必要があると考える。

(委員)

- 基本計画案については特に意見はない。その他としては、資料3に示されている主な取組について①から⑤まで挙げられているが、分別の参加率を高めることも重要であり、普段分別に参加していない者や参加が少ない世代に働きかけることが、より高い目標値を達成するためには不可欠であるため、参加が少ない層や世代を見つけ出し、アプローチすることが重要であると考え。次に、大学生の出前講座は有効な手段であり、継続してほしいと考える一方で、リーフレットの内容を見直し、他の世代と同様に大学生に対しても具体的な情報を提供する方が良いと感じている。さらに、日中青森市以外の市町村から勤務してくる方は自分の住んでいる地域の分別方法には詳しいものの、青森市の分別方法に関しては把握できているか不明であり、高い目標値を達成するためにはその点を考慮すべき課題であると考えている。

(委員)

- 資料のリサイクル率についての意見として、「一層の分別推進により排出削減に取り組んでほしい」と述べたが、リサイクル率の目標が20%近く設定されていることを踏まえると、ごみの排出量削減を図る視点に加え、自身が出すごみにリサイクル可能なものが含まれる可能性を考慮して自らのごみを見直すことを促進すれば、リサイクル率の向上と排出量削減が相互に影響しあうと考えられるため、こうした複眼的な視点からごみの排出状況を見つめ直す啓発活動を推進すべきであり、その結果、双方に良い効果をもたらされるのではないかと考える。

(委員)

○市長に対して豪雪時の排雪要請を行ったが、ごみ回収も雪の影響で困難となる状況が予想され、温暖化の進行により雪の減少は望めず、ごみ収集車の運行に支障をきたす環境にあるため、より効果的な除排雪の工夫が必要であり、関係者全員が協力し合い知恵を絞るべき時代が到来しているとの認識を持ち、雪に関する課題に対して協力して取り組む必要があると考える。

(委員)

○豪雪について、行政、排雪業者、住民がそれぞれ努力しているにもかかわらず、受け止め方にずれが生じ、不平が出ている現状がある中で、ごみの収集を担当する方が青森市内の隅々まで行くため、今年の除雪計画に関する意見を聞く際には、収集状況における課題や特定の場所での収集が困難である旨を事前に申し入れる仕組みを廃棄物事務局から整備するよう要望し、その方法についても一つの知恵として検討することが望ましい。

(委員)

○ごみの中でリサイクルできる環境を構築することが望ましいと考えるが、リサイクル可能なものと不可能なものが存在することを理解しており、最も重要な課題の一つであると認識している。先に水分の問題が指摘されたが、その点についても担当課として悩みが多いことを理解しており、意見や提案があれば教えてもらえると助かる。

(委員)

○基本計画にリサイクルは含まれているが、リユースの観点がほとんど考慮されていない。使えるものを捨てる前に考慮することが重要であり、鶴田町の「もったいない研究所」のような取組が有効である。不要品を必要とする人に渡す方法を取り入れることがごみ減量に寄与すると考えられる。今回の計画の中に入らなくても、将来的には取組の中にそうした事を織り込んでいくことが望ましい。捨てずに譲ることを促進する情報収集の方法を積極的に利用し、青森市でも働きかけを行うことが良いと思っている。